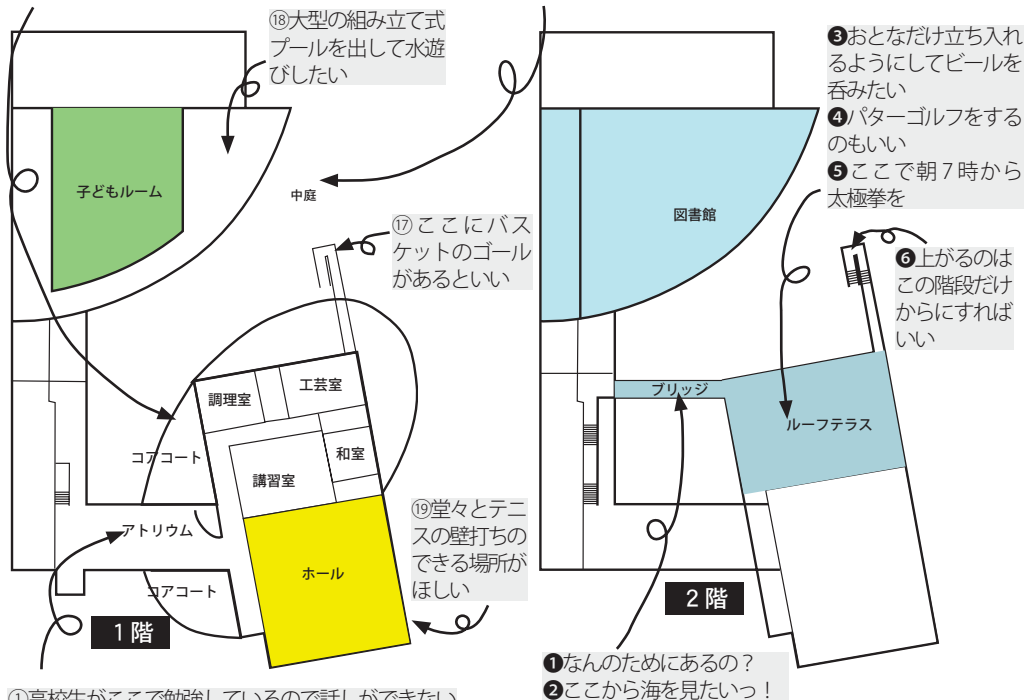


「中庭でテントを」「2階テラスでビールを」…… コアの新しい使い方を提案してみよう！

- ④正面からコアに入ると、ここには行きにくい
- ⑤アトリウムから出入りできるのか、わからない
- ⑥いすが置いてあるとか、なにか仕掛けがあるといい
- ⑦バーベキューをここでやりたい
- ⑧子どもが大きな声を出して本を読む機会をここで
- ⑨立体のおもしろいパブリックアートがここにほしい

- ⑩盆踊りをここでやるのもいいのでは
- ⑪テントの張り方をここでみんなで学んで
- ⑫ここでテントを張って寝るのもいい
- ⑬大きな木がほしい。登れるし木陰もできる
- ⑭月見をしたい。まわりの照明は消して
- ⑮井戸を掘るのもいい
- ⑯みんなでワイワイするのはいいなあ



- ①高校生がここで勉強しているので話ができない
- ②高校生にとってはここをそれなりに使っている
- ③「あげます」「ください」の情報掲示板をここに

- ①なんのためにあるの？
- ②ここから海を見たいっ！

夏休みも終盤に差しかった8月24日(土)の夕方6時から幕張ベイタウン・コアの1階中庭デッキで、本紙主催で「カレーとビールでコアを語る夕べ」を開いた。調理室でつくったカレーライスの中庭で食べるというこれまでにない使い方をしながら、アトリウムや中庭や2階テラスなど使い方の決まっていない空間の使い方を提案してもらおうというもの。参加者からは、中庭利用のアイデアや2階テラスの開放を求める声などが寄せられた。

アイデアや要望は左のとおり。

中庭利用に関しては、「テントを張って寝るのもいい」「バーベキューをやりたい」などの声が出ると同時に、「正面からコアに入ると行きにくい」との指摘も聞かれた。談話スペースが窓際に迫っているだけに、アトリウムからは確かに出入りにくい。今回のように調理室との一体利用のほうが勝手はよさそうだ。

2階テラスは安全・警備上の理由で開館直後からずっと閉ざされてきた場所で、これまでも開放を求める声はちらほら出ていた。今回も改めてそうした要望は出たものの、管理者側の考え方は変わらない。いわく、テラスのフェンスは容易に乗り越えられる造りなので危ない、1階事務室から死角になるので警備上好ましくない、などなど。うーむ。

みなさんは、どう思いますか。コアで過ごすひとときをもっといろいろに楽しみたいと思いませんか。
【茂木】

「カレーとビールでコアを語る夕べ」



◀1階中庭、ウッドデッキを使った語る会。サンドイッチマンの持つコアの図面に思い思いのアイデアを書き込む(写真の左端)。子どもたちは自分で作ったカレーに夢中、このあと暗くなってスイカ割りが始まった。



◀▶ベイタウンジュニアタイムズのメンバーを中心に50食分のカレーづくりに挑戦。タマネギに泣かれながらも、野菜を切ったり(生まれて初めて!?)、アクをとったり、煮えるのが待ちきれなくて何度も鍋をのぞいたり。

中学生と部活

打瀬中の周りには校舎を一周するランニングロードがある。一周 650 メートル。毎日ここを走るのは陸上部とサッカー部だ。サッカー部ではこの周回コース 5 周を規定タイム以内で走ることがレギュラー入りの条件になっていたこともあり、子どもたちも必死だ。4 月。入学間もない一年生は、まだ小学生のあどけなさを残しながら上級生についてこのロードを走る。中学生では学年間の体力差は大きく、一年生は大人のように大きな上級生についてゆくのがやっとだ。



見ていると所々で息を切らし、倒れるのではないかと思われるほどに苦しい表情で走っている。しかし、その一年生も夏休みの始まる頃になると、炎天下の中でもこのロードを余裕を持って走る。体つきも先輩に比べるとまだ華奢だが入学時よりはずっと逞しくなり、表情もぐっと「中学生」らしい凛々しさを漂わせる。

7 月の後半、打瀬中学校の事務室脇には各部活の総合体育大会の最新情報が書き出される。陸上部、女子 400M 田岡さん県大会優勝、全国大会へ。水泳部、菅沼君、400MFR 優勝、関東大会へ。と言った具合だ。体育関係だけではない、今年は吹奏楽部が金賞受賞という書き込みがひときわ大きく誇らしげに書かれていた。これらの情報は毎日更新され、夏休みの間部活にやってくる中学生の励みになっている。

打瀬中学校の部活参加率は文化部も含めて 98%。現在部活は強制ではないので、この数字は

非常に高いと言える。全校生徒の 98% がなんらかの部に所属し、ほぼ毎日の放課後のきびしい練習に耐えて千葉市内でも有数の結果を出してきた。

これだけ部活が盛んだと、つい勉強は大丈夫？と聞きたくなる。実はその疑問を昨年ストレートに校長先生にぶつけたことがある。校長の返事は、「部活がいいときには学校全体に活気があり、生徒会活動や学力でもその成果がはっきりと出ます。進学も当然よくなります」という自信に満ちたものだった。

中学高校時代は打ち込めるものを見つけ、それに邁進するのが一番だ。運動部の練習を終わり、疲れて帰って塾に行く。そんな生活を送る子もいる、だが本人は意外に淡々とスケジュールをこなし、忙しいながらも充実した 3 年間を送っているようだ。

【松村】

僕は中学生生活 3 年間テニスに打ち込みました。今年の 3 年生夏の総合体育大会はその集大成でした。1 学期に行われた総体激励会では「関東大会まで行きます!!」と公約しましたが、本番の県総体の決定戦で残念ながら惜敗し、あと一步で夢を果たすことができませんでした。来年こそ関東大会出場を果たして下さい。

中学 3 年間のテニス部での活動は僕を完全に燃焼させてくれました。来年も Fight!!

テニス部 法月恒太郎

企業庁・連合会定例会議傍聴記

ベイトウンニュース先月号（63 号）で紹介した企業庁とベイトウン自治会連合会との定例ミーティングが 8/26（月）行われた。当初このミーティングは 8/12 の開催予定であったが、日程が変更となり延期しての開催となった。学校問題や交通問題などの重要問題に千葉県企業庁はどう対応しようとしているのか、また自治会連合会はこれらの問題に我々住民の意思をどう反映させようとしているのか、オブザーバーとして出席しミーティングの内容取材した。

【松村】

ミーティングの参加者は企業庁からは松尾室長を含め 5 人、ベイトウン側からは伊藤自治会連合会長を含む連合会役員 2 名、シニアクラブ役員 2 名、オブザーバー 2 名の計 6 名であった。本紙で広報したこともあり、当初はもっと多数の参加予定が見込まれたが、思ったより参加者は少なかった。

会議は企業庁、連合会双方からイベント対応策などの報告や要望が相次いだ。ベイトウンの将来図について住民と企業庁とで話し合うべき問題が山積するなか、期待した双方の意見の応酬というヒートアップするような局面がなかったのは残念だ。当日話し合われた内容をメモとして添付したの

で参照してもらいたい。

そんな中、目をひいたのは交通問題についての検討であった。この問題は自治会連合会の交通委員会（福室委員長）が前回の会合で企業庁側に協力を呼びかけていたものだ。交通問題は住民の増加とともに年々深刻化し、企業庁と住民とで抜本的な対策を講じる時期が来ている。双方が協力して話し合う場をつくり、1 年程度を目途に対策を考えたいと、福室氏は企業庁に提案していた。

この日の会合で企業庁側は回答として「路上駐車問題に対する取り組みについて（案）」という文書を示し、企業庁がこの作業を協力して行うこ

ととその作業フロー案を提示した。文書には「居住者の合意形成」や「居住者が主体のもとに」との文言で住民参加が明確に表現されている。今後はこの企業庁側の回答にもとづいて、住民が参加して議論できる場を具体的にどのように実現させるかが焦点となる。おそらく委員会的なものを別途設置すると思われるが、この会合は公開のものとし、住民誰でもが情報を常に共有できるしくみを作ることが当然盛り込まなければならない。次回の会合ではその具体策が話し合われる。次回の会合も住民のオブザーバー参加が可能。是非多数の住民の直接参加をお願いしたい。

9 月の企業庁とのミーティング
日時：9/9（月）19:00～21:00
場所：幕張テクノガーデン D 棟 15 階
千葉県企業庁分室



8/26 定例会の議事メモ

- 千葉国際駅伝関連情報を各番街自治会に掲示物として配布した（連合会）。
- 「にぎわいプラザ」（9/12～9/13）開催についての広報依頼（企業庁）。
- 駅前でのナンバ族対策取り締まりについて（連合会）。
- 公団、公社の番街自治会の結成について（前回連合会より企業庁に協力申し入れを行ったことに対する回答）
- 交通問題についての検討（本文参照）
- トライアスロン大会にちなんだクリーン作戦への協力要請（シニアクラブ）。
- 台風で倒れた街路樹の管理について（グリーンサム）。

いつも気持ちよく利用していただくために

「この本は、新しくて気持ちいいね」とカウンターで声をかけられると、こちらもうれしくなります。

ただ、このごろ、ちらほらと本の傷みや汚れが目につき始めました。図書館では、少しでも長くみなさんに気持ちよく利用していただくために、返却された本を一冊一冊点検をしています。古い期限票がはさまっていないか、ページがとれていないか…。なかには、ペットのいたずらで本に傷がついてしまっているもの、いたずら書きや水ぬれのものもあります。

汚れがある場合はクリーナーで拭いたりしていますが、あまりひどい場合は、同じ本を現物で弁償していただくことになります。借りた本が破けていたり、ページがとれていた場合は返却時にその旨お話しください。図書館専用のテープや糊で修理いたします（ご自宅での修理はご遠慮ください）。

みなさんの本です。いつまでも、きれいに大切にしていきたいものです。

公民館から

打瀬ぱくぱくキッチンクラブ 9/21、10/12、11/9

■午前9時30分から午後12時30分まで

■場所：打瀬公民館調理室

■募集：小学校4・5・6年生（定員16人）

■材料費：1回500円（当日、公民館の人に渡してください）

□メニュー

9/21（第1回）三色ごはん、青菜のゴマあえ、吸い物

10/12（第2回）マカロニチーズグラタン、サツマイモのレモン煮、スープ

11/9（第3回）サケのトマト風煮、にんじんごはん、デザート

※ご指導くださるのは、食生活改善推進委員「ヘルスメイト」のみなさんです。

★申し込み：9/3（火曜日）午前9時から電話または直接、公民館にお申込みください。TEL.296-5100



中高生のための楽しいクッキング講座

9/28、10月、11月、1月、2月、3月（毎月いずれかの土曜日）

■午前10時～12時

■場所：打瀬公民館調理室

■募集：中高生の男女（定員16人）

■講師：法月澄子さん

■材料費：第1回700円（当日集めます）

□メニュー

9/28（第1回）フランス料理◆コックオバン（鶏のワイン煮）・揚げシュー

10月（第2回）中華料理◆ジャージャー麺・ごま団子

11月（第3回）クリスマス料理、1月（第4回）バレンタインチョコレートケーキ、2月（第5回）ひな祭りいちごのケーキ、3月（第6回）新しいスタートのためにパーティ料理・クレープ

★申し込み：9/5（木曜日）午前10時から電話で公民館にお申込みください。毎月1回ごとの受付となりますが、今回は9月分から先の申し込みを受け付けます。TEL.296-5100

予告！10月からはこんな講座が始まります。

「打瀬子育て講座」（2歳児と保護者を対象とした子育て講座。10/17～12/5の毎週木曜日・全8回）

「房総の太巻きずし」（千葉県伝統料理太巻きずしの作り方。10/16、23、30・全3回）

「ハンドメイドの子供服」（3～5歳児の子供服を作る。10/24～平成15年2/9・全8回）

★申し込みは10/5から10/10までに直接、または電話で打瀬公民館まで。TEL.296-5100

※詳しくは次号のベイタウンニュース（10月5日発行予定）でお知らせしますが、公民館でもお知らせしていますのでおたずねください。

おもちゃをありがとうございます。

先月号で不要のおもちゃの寄贈をお願いしましたところ、早速御寄贈をいただきました。きちんとお礼を申し上げることもできず、ベイタウンニュースの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。いただいたおもちゃは公民館事業で有効に使わせていただきます。

ごみ拾いを通じてほかの団体と知り合おう！

ボランティアサークルとシニアクラブが清掃ボランティアへの参加を呼びかけ

ベイタウンボランティアサークル（小川裕二代表）とベイタウンシニアクラブ（砂原正行会長）は共同で、ベイタウンで活動するさまざまな団体に、10月5日（土）に実施予定の清掃ボランティアへの参加を呼びかけている。マリスタジアムから花見川にかけて

の一带を会場として翌6日（日）に開催予定のトライアスロン大会を前に、ランニングコースのごみ拾いをする。同じベイタウンで活動する団体同士が互いに知り合う機会をつくることで、人の輪を広げようとのねらいだ。

清掃ボランティアの当日は、朝7時に

打瀬2丁目公園に集合して、2時間ほどかけてコースのマリスタジアム寄りをまわる。軍手やゴミ袋など用具は、呼びかけ人側で用意する。呼びかけに賛同してボランティアに

参加する団体は9月14日（土）までに、ボランティアサークル代表の小川さん（電話211-7736／電子メールfwic5763@mb.info.web.ne.jp）にあてて、参加者の氏名と居住マンション名を添えて申し込む。団体の活動分野は問わない。

清掃ボランティアのあらまし

実施日時：10月5日（土）
午前7：00～9：00

集合場所：打瀬2丁目公園

実施内容：翌6日（日）開催予定のトライアスロン大会のランニングコースでごみ拾い

呼びかけ：シニアクラブ＆ボランティアサークル

ボランティアサークルやシニアクラブではこれまで、ベイタウン内の公園で月一回ごみ拾いをしたり、同じ美浜区内の特別養護老人ホームで月二回、入所者の居室を整理・清掃したりしてきた。ボランティアサークルにはかねて、「幕張の海岸を美しくする活動

を年に一回でも地元の人たちでできれば」との構想があって、今回の清掃ボランティアはそれを実現させるかたちで企画したという。

【茂木】

●呼びかけ人から



ベイタウン
ボランティア
サークル
代表 小川裕二さん

準備の都合で、呼びかけ人にはベイタウンシニアクラブとベイタウンボランティアサークルとが名を連ねました。ただ、参加サークルは対等の立場、つまりヨコの関係で協力し合えれば、と思います。

参加者名簿を団体ごとに整理すると、名前の重複が多く見られるのではないのでしょうか。人の「輪」とはとっても、単純なひとつの輪ではなく、小さな輪が幾重にも重なり合った姿なのかもしれません。

今回の活動を通じて、団体間で互いの違いや類似点を認め合ったり、異世代の参加者が交流できたりするとすばらしい、と思います。だからこそ、団体の活動分野は問いません。学校のサークルからの参加も期待しています。（談）

ベイトウンニュース投書箱をコア設置のものに一本化します

本紙 62 号でお知らせしましたが、9 月末で投書箱をコアの 1 階ロビー設置のものに統一し、今までご愛用いただきましたファミリーマート、ヤンマー、デイリーヤマザキ、リンコスの各投書箱は撤去します。今まで投書箱を置いてくださった、各店舗の皆様ありがとうございました。なお、投書の際は、投書内容の確認などの連絡ができるように、必ず投書者の名前と連絡先を明記してください。「匿名希望」の場合は、その旨をお書きいただければ、紙面では匿名にて掲載いたします。

これからもベイトウンニュース投書箱をよろしくお願いいたします。

災害への備えは万全ですか？

阪神大震災から 7 年の歳月が流れました。公団は震災直後「震災復興事業本部」を設置し、市街地再開発・土地区画整理をはじめとする諸復興事業に取り組んできており様々な成果をあげています。9 月 1 日の防災の日をむかえるにあたり改めて災害に備える気持ちを持つ意味で、今月は当時復興事業に関わった関係者による 2 年前のレポートを振り返ることにします。

「平成 7 年 1 月 17 日早朝、真冬だというのに妙に暑苦しくて目が覚めてしまうと、突然“ゴー”という音とともに嵐の中で船に乗っているような大きな揺れがやってきた。立ち上がることもできずガラスの割れる音だけが聞こえた。これはとんでもないことになった！それが私の震災の記憶の始まりであった。それから次から次へと様々な記憶が重なり合っていく。…中略…

私は復興事業本部が設置されると同時に配属され気がつくともう 5 年、関わった仕事は芦屋の区画整理事業。倒壊住宅の取壊しから今日までずっと現場を見続けてきた。私は大した働きはできないが再建住宅を見るとそれだけで嬉しくなってくる。全国各地から応援に来てくださった方々、復興事業に関わっていなかったら決して知り合えなかった人達、元気でやってますか？皆さんのおかげでアト一步です。ぜひ神戸を見に来てください。待っています」

この原稿を書いている都市公団の私も震災直後に現地に訪れましたが、強く覚えているのは、リュックを背負い被災地に近づくにつれて胸の奥からこみ上げてくるものを抑えきれずになりながら「この自分に何ができるか」を必死で考えたことと、驚いたことに地元の人々は避難所で遅く元気に生活していたことです。



写真提供 ベイトウンニュース浜田



都市公団

賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL: 047-478-3711

公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活(株)千葉支店

「サウンド・オブ・ミュージック」求むスタッフ!!

本紙 Who's Who でも紹介していますが、12/15 開催予定のコンサート「サウンド・オブ・ミュージック」のお手伝いをしてくださる方を募集しています。問い合わせは森本真由美さん (TEL211-7676) まで。

■私のように普段都内に通勤している人間にとって、「街」との接点は非常に限られます。本を借りに行ったり、コンサートを聴きに行ったり、散歩の途中で一休みしたり、コアはそんな人たちにも新しい接点を提供してくれます。ベイトウンニュースでも配布会をコアでやるようになり、今回の「コアの使い方を考える夕べ」(P1 に記事) なるものも開催することができました。コアの活動に平日働く人たちをどこまで巻き込めるか、こんな視点から見ていきたいと思っています。

佐藤則子 (#3-310/T&F211-0090)

■映画「サウンド・オブ・ミュージック」いいですね。つい見入ってしまいました。ジュリー・アンドリュース演じるダメ修道女が家庭教師として、規律重視の軍人の父と 7 人の子どもの家庭に赴くところから話は始まります。ドレミの音階と同じ数だけ子どもがいたり、父のしつけで歌ったことがないのに子どもはみんな歌がうまかったり、とうまくできすぎているところも楽しめます。

茂木俊輔 (#7-305/T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■今月、公団の担当者のかたの記事をメールで見て、私もいろいろ思い出しました。福井に疎開するため、車で 13 時間もかけて京都の叔母の所へ行く途中、大阪近くになると「ここは日本だった！いつの時代のどこの国だったんだろう、さっきまでいた神戸は」と思ったものです。また、さまざまな都道府県の名前の入った救急車・消防車…特に沖縄の人たちが真冬なのに薄着でかけつけてくれたのには、とても感動しました。その疎開先から戻った時「壊しているビルの前、歩道上まで停められたバイクの間を通学する子どもたちを守らねば」と、新聞投稿したり PTA 広報委員を شدしたのが、私の「地域活動の始まり」でした。

浜田貴代子(公園東 atmark@pop01.odn.ne.jp)

■7 月号のワールドカップ記事に関して、読者の方から「記事に載ったボランティアの方はあまり良い印象ではなかったようです。自分も動機不純で応募しましたが、結果的には一生思い出に残るような素晴らしい経験をすることができました」と体験談を送ってくれました。私たちからの一方通行の発信だけでなく、こういった“反応”があると、私たちも勉強になりますし、刺激にもなります。皆さんからの反応を、今後も楽しみにお待ちしております。

板東司 (#1-210/T&F211-0289/tbando@cp.u-netsurf.ne.jp)

■先月につづいて今月も幕張周辺の話。旧 14 号線沿いの幕張本郷付近に「堂の山」という小さな山があり、そこに「堂の山首塚」と言われる大きな石塚が立っている。首塚と言われるが誰のものか、主の名も書かれていない不思議な塚だ。一説では 15 世紀に幕張に住んだ「馬加康胤」(まくりやすたね)の首塚とも言われるが正確なことはわからない。馬加康胤は亥鼻城(今の千葉城)を攻め落とし、千葉氏の内紛劇の中心になったとも言われる人物だ。堂の山の首塚から中世千葉の歴史のドラマが見えてくる。康胤が住んだと言われる馬加城跡には、今は高層マンションが建ち、往事を忍ばせるものもない。埋め立て地の新都心と違い、古い幕張には歴史の跡がまだまだある。

松村守康 (#10-612/T&F211-6853/mmatz@m2.pbc.ne.jp)

映画「サウンド・オブ・ミュージック」を題材に、公募の小学生らが出演するコンサートを12月15日に幕張ベイタウン・コアのホールで開く。コンサートの言い出しっぺで、裏方も務めるのが、森本真由美さんだ。プロの歌手でもあるが、コンサートでは子どもに舞台を提供する側に回る。

「テーマやストーリーをもったコンサートをやりたいくて」と森本さん。音楽仲間に相談した結果、身近で作りやすく参加しやすいとの理由から、この映画を題材に選んだ。コンサートでは語り手の進行で物語を追うのに合わせて、映画に登場する「ドレミの歌」や「エーデルワイス」などを披露する。

ふたりの小学生の母でもある森本さんは、「週休二日になって土曜日の過ごし方も気になって」とも言う。土曜日を使って子どもと一緒になにかを作り上げて発表する——そんな機会を設けたかった。練習は今月から、土曜日を中心に演目ごとに取り組む。

舞台上立つ子どもは公募の小学生を中心に総勢100人ほど。合唱のほか、ハンドベル、ダンス、リコーダーも演じる。指導にあたるのは、ベイタウンで活動するそれぞれのサークルだ。同じ街なかに住んでいてもふだんは顔を合わせることもないおとなと子どもが、今回のコンサートを通じて交流を図る。

森本さんは5年前の12月にもコンサート

の開催を手がけたことがある。ご記憶の読者もいるだろうか。打瀬中学校の多目的ホールで開いた「ファミリーコンサート」だ。

「でも、あのときはみなさんが助けてくれて、最後は出演者でしたから。今回、自分ではじめて、企画書を明け方の3時、4時までかけて書き上げたりポスターを作ったりと苦労してみて、前はまわりに迷惑をかけていたんだなあ、とつくづく思いました」

やりたい人がやる——それを森本さんは「ベイタウンの流儀」とみる。だんだんそれがわかってきた。ベイタウンで活動しているほかの人たちの楽しそうな姿を見て、元気付けられもした。言い出しっぺがそうして動き出せば、まわりは真摯な姿勢にほだされて、自然と助けに回る。助けに回る人がいるからこそ、やりたい人がやれる。

森本さんが街でこうした活動をするようになったのは、ベイタウンに越してきて間もなく、「この街では音楽仲間がほしい」との思いでコミュニティコア研究会の集まりに顔を出したのがきっかけだ。そこから、人の輪が広がっていった。

「ベイタウンに越してくる直前3年ほどは歌から離れていました。でも、歌わないと不安だったり、追い詰められた感じがしたり……」。森本さんが歌を始めたのは、小学校5年のとき。以来ずっと、アマとしてプロとして歌とともに歩んできた。周囲には当たり前のように音楽仲間

もいた。わずか3年とはいえ、歌や音楽仲間と切れた暮らしで不安感や切迫感を抱くのも無理はない。

「いまは子どもと楽しく歌いたい」と森本さん。「子どもの歌っている姿を見るのが好き」とも言う。子どものころ、ひたすら歌うのが楽しかったに違いない。しばらくすることなく歌えた時代でもあったろう。そうした自らの記憶を、子どもの歌っている姿は呼び覚ましてくれるのだろう。

森本さんにとって歌うことは、映画「サウンド・オブ・ミュージック」での描き方と同じく、「自由」の象徴なんだなあ。【茂木】



第5回ベイタウンカップ争奪 街区対抗綱引き大会開催！！

今年で5回目を迎える綱引き大会は、開催時期をベイタウンまつりから独立し、秋に行う運びとなりました。過去の戦績は第1回から5番街の3連覇。それも第3回は雨天のため景品争奪のじゃんけん大会となり、それをも制した5番街。連覇の記録に待ったをかけたのはグランパティオス公園東の街。若いお父さんの力と、応援団の旗を振っての大歓声、いまでもよく思い出せます。この大会は、どの街区でも参加できるので、各街区の掲示板をご覧ください。街区ごとにチームを作ってください。街区の自治会、管理組合が中心になると思いますが、ない場合でもこの記事をご覧ください。あなたが中心になってチームを作ってみてください。

綱引きのゴシップ記事は、ベイタウンニュース挟み込みのチラシをご覧ください。

【綱引き大会実行委員会 佐藤総一】

日時： 9月22日（土）9:00～15:00（雨天時翌日に延期）

場所： 11番街、13番街間の空き地（昨年と同じ場所です）

参加対象：ベイタウンの街区単位（参加人数が少ない場合、合同チームも可）
大人、子供（小学生、中学生）の混合チームであること

参加費： 無料

ベイタウンにオニヤンマ現る

8月の初旬にコアで館長さんが「面白いトンボが居る」と教えてくれた。見るとアトリウムのシャッターの中段付近に大きなトンボが一匹しがみつくとまっていた。「オニヤンマだ!」。どういう訳かわからないが、とっさにそう直感した。それから館内で捕獲大作戦が展開。近くに居た子どもたち10人程が、子どもルームで借りたアミと公民館の石井さんがどこからか見つけてくれた長い棒をつないで、このトンボを追いかけていた。

15分ほどの格闘の末、結局2階の図書館の入り口付近でやっとアミに入れることができた。胴体には黒地に黄色のしま模様。精悍な顔つきと恐ろしいほどのあご。間違いなくオニヤンマだ。持ってみた子どもたちは、差し出した指をオニヤンマの力強い足に引っ張られ驚いていた。

昨年ベイタウンで昆虫講座を開催してくれた県立中央博物館の斉藤博士に照会したところ、湾岸地域でオニヤンマを確認したのは初めてとのことだった。強い風に乗ってやってきたのだろうか。ベイタウンでは昨年も湾岸地域では絶滅したと言われていた「チョウ

トンボ」が捕獲されている。昆虫や野鳥の生息調査で移りゆくベイタウンの環境を調べたら面白いだろう。

オニヤンマは今では珍しくなり、田舎でも昔ほどはみつからないという。私も最後にオニヤンマを手にしたのは40年以上も昔だ。友達の捕まえたオニヤンマが羨ましく、一日中野山を探して駆け回ったことを思い出す。

ベイタウンのオニヤンマはどうなったかって？ もちろん子どもたちは皆で相談して、放してあげました。最後まで残念がってた子もいたけど。【松村】

